

教育ひょうご

保護者版 地域版

第91号

教育ひょうご保護者版は、教育の問題をみなさんとともに考えるため、兵庫県教職員組合と、ゆたかな教育の創造をめざす兵庫県民会議で編集したものです。

・ひょうご教育フェスティバル
「東北播の先人展」より
・「子ども虐待」実態調査より

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8
兵庫県教職員組合
発行人 山名幸一
編集人 西嶋保子
電話 078(241)2345



「トライやる・ウィーク」や「自然学校」での子どもたち(2005年)
撮影：東北播地区の先生方



明石市で「ひょうご教育フェスティバル」(第58次兵庫県教育研究会)が開かれます。兵庫県教育文化研究所と兵庫県教職員組合の主催。県教育委員会や各市町の教育委員会、校長会、県PTA協議会などの後援があります。教職員と保護者、子どもたち、地域のみならずが参加して、教育や子育てを分科会で考えます。また、楽しいステージ発表や子ども体験発表、子どもの笑い声が響くような展示コーナー・体験コーナーがあります。「地域に開かれた教育研究会」として開催します。

地域とつながる教育フェスティバル

教職員・保護者・子どもたちとともに

みなさん、誘い合ってください。

初日8日(土)の全体会会場は、明石市立産業交流センターで、午前9時開会です。明石市立大久保北中学校吹奏楽部による演奏がオープニングを飾ります。また、兵庫県教職員組合文化賞の発表と表彰、大阪教

育大学監事の野口克海さんの記念講演などがあります。午後からは翌日9日(日)の分科会や展示・体験コーナー、ステージ発表・子ども体験発表などは、大久保南小学校、大久保中学校でおこなわれます。(別項参照)

24の分科会

保護者・地域の方々のレポート参加も



昨年の「芦屋教研」での外国語教育の分科会

8日午後2時から9日午前8時45分からの分科会は、大久保南小学校と大久保中学校で、1つの特別分科会を含めた24分科会で、日ごろの実践についてレポートをもとに話し合う。保護者・地域の方からの報告もある。「子どもを中心

にすえた分かる授業、楽しい学校づくり」や「地域と手をたざさえて 子ども・保護者の願う教育改革」をめざして!

子どもの育ちを考えるシンポジウム

レスリング吉田選手 オリンピック2大会連続金メダル! その「夢・挑戦・達成」の秘訣を師弟から学ぶ!

明石市立産業交流センターでは午後2時から「子どもと響き合う教育をみんなで語り合おう」をテーマに、子どもの育ちを考えるシンポジウムが(財)こども教育支援財団(財)総射とめた吉田沙保里選手

野口克海さんが記念講演

「現在の子育てにもとめられているもの」



野口さんは、大阪の公立中学校社会科教師として15年勤務された後、大阪府教育委員会では、人権教育・同和教育・生活指導の担当として20年間従事してこられた。子どもたちの学力問題について、「意欲の二極

展示・体験コーナー

8日(土)午後12時から5時まで。9日(日)午前8時から午後3時まで(体験コーナーは午前9時から)開催されています。スタンプラリーにもご参加ください。

- 会場/大久保南小学校**
- 【体育館】 第29回「あすをひらく美術教育展」
 - 【校舎】
 - (1階) 視力障害と盲導犬
 - (2階) 第15回「いのちの教育」手づくり教材・教具展
 - 子午線展
 - 平和と人権問題を考える資料展
 - 世界人権宣言展
 - 震災コーナー
 - 布のおもちゃ作り(さわる絵本・おもちゃ展)
 - 親子で楽しむ読み聞かせ教室
 - 教職員共済展示コーナー
 - (3階) 安全でおいしい学校給食展
 - 親子でつくる郷土料理教室
 - 子ども多文化共生展
 - 理科体験教室

- 会場/大久保中学校**
- 【体育館】 アートホール神戸「写真公募展～子どもの世界～愛」入賞作品展
 - 【校舎】
 - (1階 1号棟) (財)兵庫県学校厚生会事業展
 - 理科ものづくり教室
 - 明石のため池展
 - 東北播の先人展
 - あそびにおいて「古代体験!!」
 - (2階 1号棟) 教職員共済展示コーナー
 - (2階 2号棟) 兵庫県教職員組合教育文化・社会貢献活動事業展
 - 折り紙チャレンジコーナー
 - (2階 3号棟) ラベンダークラフト
 - 杉原紙を使った人形づくり

ステージ発表

子どもたち・保護者・地域の方々による伝統芸能や表現活動の発表です。教職員も出演します! どうぞお楽しみに!!

- 11月8日(土)**
- 12:30～13:50
- 会場/大久保南小学校
- *和太鼓(ならの美和太鼓クラブ/加西市)
 - *弾き語り(浦野兄弟/三木市)
 - *よさこい(おの恋ワールド友の会/小野市)
 - *和太鼓(三木こども太鼓/三木市)
- 会場/大久保中学校
- *谷八木和太鼓(谷八木小学校6年生/明石市)
 - *合唱(合唱チーム「朝香」/加西市)
 - *津軽三味線(吉川昌山千(しょうざんせん)/多可町立加美中学校3年生)
 - *落語と小話(人丸小学校落語クラブ/明石市)

- 11月9日(日)**
- 12:00～13:00
- 会場/大久保南小学校
- *吹奏楽(稲美北中学校吹奏楽部/稲美町)
 - *踊っ子(青成会/高砂市)
 - *ミュージックベルと音楽物語(おんがくサークルふらっと/多可町)
- 会場/大久保中学校
- *プラスフィールドフェスタ(滝野中学校吹奏楽部と滝野(たきっこ)ソラン/加東市)
 - *チャンゴ(松陽高校地域貢献事業サークル 韓国伝統打楽団 ころもっきる/高砂市)
 - *ジャズダンス(明石市ジャズダンスファクトリー〈大久保Kids・貴崎Kids〉/明石市)

子どもと親の劇場

貞松・浜田バレエ団公演

11月8日 (土) 明石市立西部市民会館



動物のカーニバル・白鳥の湖・日本のバレエ(まつり)他
「動物のカーニバル」は、いばったライオンやおしゃべりなわたりなど、いろいろな動物たちのおどり。貞松・浜田バレエ団の公演は、小さな子どもでも興味をもてるような楽しくコミカルな創作作品や、クラシックバレエの代表作である「白鳥の湖」など、親子で楽しめる多彩なラインナップ。
昨年は、満員止めの盛況で、参加された方々にとっては、解説つきの楽しいバレエ鑑賞となった。
8日(土)午後6時から、会場は明石市立西部市民会館です。上演協力金(小・中学生500円・大人900円)お問い合わせは、ひょうご教育フェスティバル東播事務局TEL(079-427-1191) FAX(079-9-427-1196)まで。

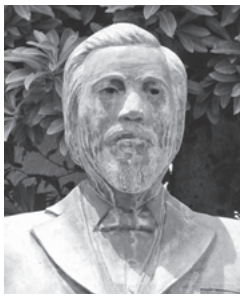
ひょうご教育フェスティバル 展示・体験ゾーン 「東北播の先人展」より

兵庫県の東播磨明石市、加古川市、高砂市、加古郡と、北播磨(三木市、小野市、加東市、西脇市、多可郡、加西市)ゆかりの先人を紹介する。
考古学者・直良信夫 (明石市)



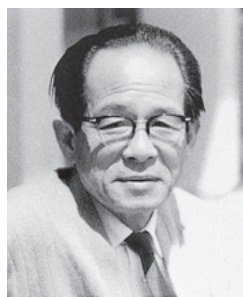
明石市教育委員会提供

「明石原人」の発見者。体の療養とともに、以前から関心のあった考古学研究を明石の地でとりくまれた。大蔵山遺跡(現・神戸市垂水区)の調査研究をはじめ、明石周辺の遺跡などを細かく調査。1931年に、大久保町の西八木海岸で人類の腰骨の一部を発見。しかし、現物は空襲で失われ、現在、明石市文化



小宮村(現・播磨町小宮)に生まれ、日本で最初の新聞「海外新聞」を発刊し、「新聞の父」と呼ばれている。幼名を彦太郎といい、1850年船で江戸へ向かう途中、遠州灘で暴風にあい漂流。米商船オークランド号に救われ、1951年サンフランシスコに着いた。その後、1859年に神奈川領事館通訳として日本に戻り、1864年「海外新聞」を発刊した。

新田王・ジョセフヒコ (加古郡)



の教科書に「春」という詩が載っていた。加東郡(現・加東市)東条町で生まれ、関西学院に在学中、「日本詩人」に「お鶴の死と俺」が入選。以後、次々と詩を発表。同学院を卒業後、郷里で農業をしながら、詩集「たんぼ」と小説集「百姓の話」を出版。生家をつつむこの時の里は、坂本文学の原風景でもあり、土着的な美しさがある。

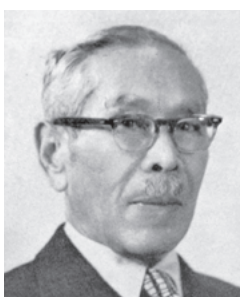


播州織・飛田安兵衛 (西脇市)

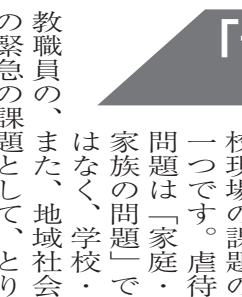
播州織の起源は古く、1792年、宮大工の安兵衛が京都西陣から織物の技術を導入したと伝えられている。安兵衛の住む比延町は、ほとんどが畑だったが、凶



産地の適応性や栽培法の研究に没頭した。また、美轟郡吉川町(現・三木市吉川町)にも試験場が開設されると、ここでも黙々と研究に打ち込み、酒造革命をもたらす大粒の新しい酒米の特性を探りあてた。1936年、県はこれを「山田錦」と命名した。



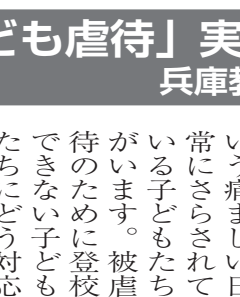
教育者・大谷武一 (加西)



日本近代体育の父。東京高等師範学校の体育教官として欧米の視察から帰国後、1922年日本に初めて「ハンドボール」を紹介。また、1926年「ドッジボール」を命名。1928年には、正式名称「国民保健体操」(ラジオ体操)の考案をおこなった。また、ロサンゼルスオリンピック体操チームの総監督を務めた。日本体育連盟の創立や日本ハンドボール協会の設立など学校体育、競技スポーツ両面での普及に情熱を注いだ。

「困った子」は「困っている子」 子どもの最善の利益をめざして

最も安心安全(340校園)。しかし、ア



「子ども虐待」実態調査より 兵庫教育文化研究所

家庭で、虐待を受けた児童や、命を落としてしまうという痛ましい日常にさらされている子どもたちがいます。被虐待のために登校できない子どもたちにもどう対応できるかが、学校現場の課題の一つです。虐待問題は「家庭・家族の問題」ではなく、学校・教職員の、また、地域社会の緊急の課題として、とりくみを深めていかなければなりません。

調査は今年5月に行われ、県内340校園から回答を得ました。「虐待が認められる」または「気になる子」はあわせて653人

か、日ごろから様子を観察し、相談できる信頼関係作りが必要です。

このように子どもたちの生活背景を知り、子どものおかれている状況を把握し、理解した上で子どもに向き合うことが何にもまして重要で、今年度の調査からも、直接家庭に向き出すことが、その子の生活状況を把握でき、虐待に気づき、支援をうけることができるようになった子どもがいることが分かります。

今年度、19件の性的虐待は特異な事例として、なかなか被害の状況に周りの者が気がつかず、そのことが長期にわたって子どもを苦しめることにつながります。知識をもって子どもを観ることが必要です。

母親の問題と捉えがちになりませんが、そうならざるを得ない背景があり、「母親の精神疾患」も多く報告されています。また、経済的に困っている場合が多く、就労問題(夜の仕事など)や安定した収入がない中で、「子どもが足手まとい」という感覚になることなどが考えられます。

身体的虐待 虐待問題は、子どもの成長にさまざまな障害をきたします。場合によっては、その家庭支援の長いとりにみになることもあります。そのためには大勢の人の協力が必要で、学校教職員全体の共通理解、地域民生委員や子ども家庭センター、教育委員会との継続的連携が要ります。また、

心理的虐待 排尿の失敗や家出、不可解な行動には、その原因が子どもにあるより、不適切な養育環境によるものがかりです。子どもたちは家庭の状況を誰にも相談できず悩んでいたり、勉強に身が入らなかつたりします。子どもが困っていない

秋がなつとる 多可郡松井小学校 二年 大はし せいや
先生、先生つてばあ
バツタをみつけたよ。
きのみをみつけたよ。
イナゴをみつけたよ。
メタセコイヤをみたよ。
すつこくでかかったよ。
どんぐりをみつけたよ。
カエデをみつけたよ。
こんななゆつくりみたのははじめてだったよ。
もう秋がきたる。

たつの市播磨高原東中学校三年 赤浜 葉子 (こどもの詩と絵 第28集より)



たつの市播磨高原東中学校三年 赤浜 葉子 (こどもの詩と絵 第28集より)

か、日ごろから様子を観察し、相談できる信頼関係作りが必要です。